

旭医大眼科の臨床研修の特徴

初期臨床研修では

1. 眼科臨床のための基礎知識の習得
2. 眼科検査、診断、治療方針の研修

各種クルズスや眼科手術の助手、外来の実践、ウェットラボで豚眼を使用し白内障手術の練習を行います。研修医～眼科医1年目までに白内障手術完刀が目標です。

後期臨床研修では

1. 関連病院での外来診療・手術
2. 旭川医大病院での専門外来・手術
3. 大学院進学、国内・国外留学

医師によって進路は様々ですが、まずは専門医取得を目指します。

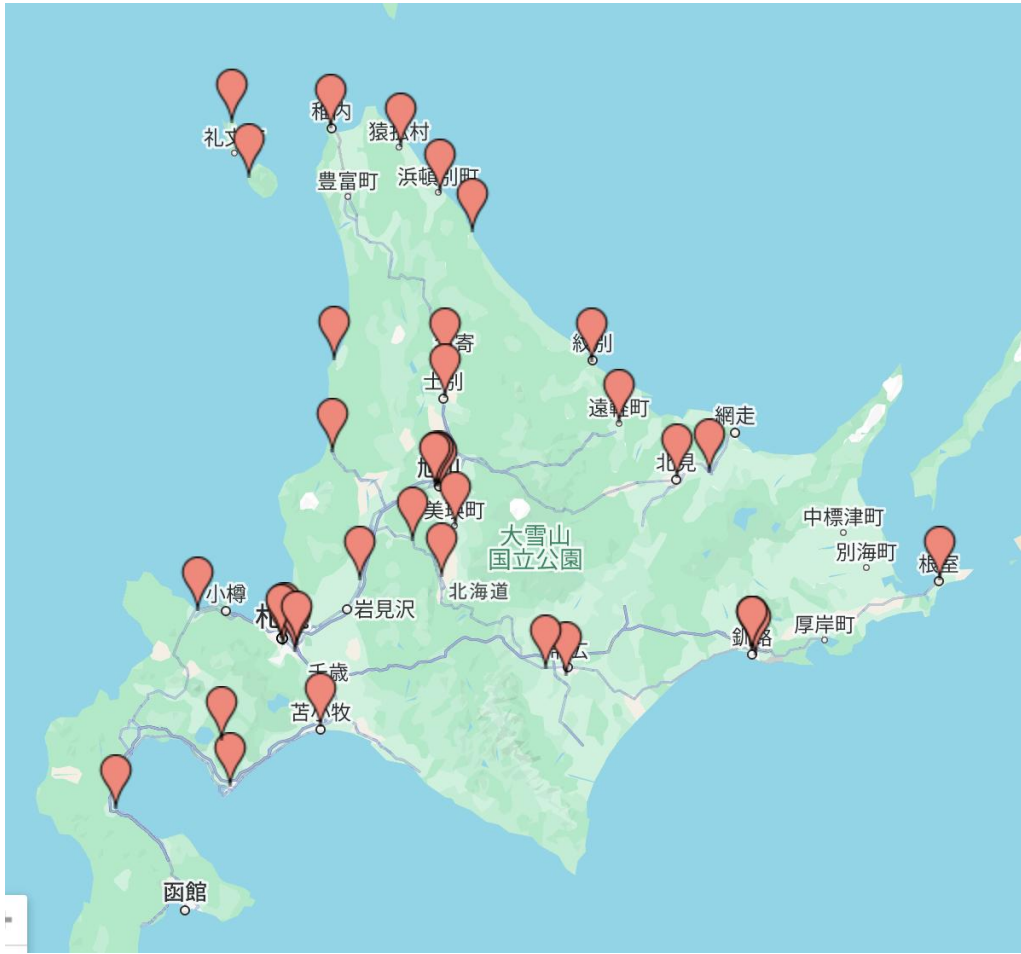
専門医の最短取得は眼科医5年目であり、必須要件として

①白内障執刀150例、②学会発表2回以上、③論文投稿1回以上が求められます。

旭川医科大学眼科は最短での取得が可能であり、多くの医師が取得しています。

旭医大眼科の関連病院

令和7年現在、北海道全域の眼科医療を担っております。



研修記 1. 村松 秀哲 先生 後期研修1年目 旭川医科大学病院



略歴

2024年 旭川医大 卒業
旭川医科大学病院 初期臨床研修
2026年 旭川医大病院眼科

私は研修医2年目の6月から10クール、眼科で研修しました。

眼科は専門性が高く、独自の用語や概念に最初は戸惑うこともあります、それは誰もが通る道です。むしろ早い段階で眼科研修を始めることで、戸惑いを乗り越えるスピードも、技術習得の速度も大きく変わります。

この医局の魅力は、指導体制の手厚さと、医局全体のあたたかい雰囲気にあります。

分からないことは何でも相談でき、カンファレンスや手術への参加を通じて、知識・技術ともに着実にステップアップできる環境です。

研修中には硝子体注射や白内障や眼瞼手術の一部を経験させていただくなど、他科では得られない貴重な機会にも恵まれました。

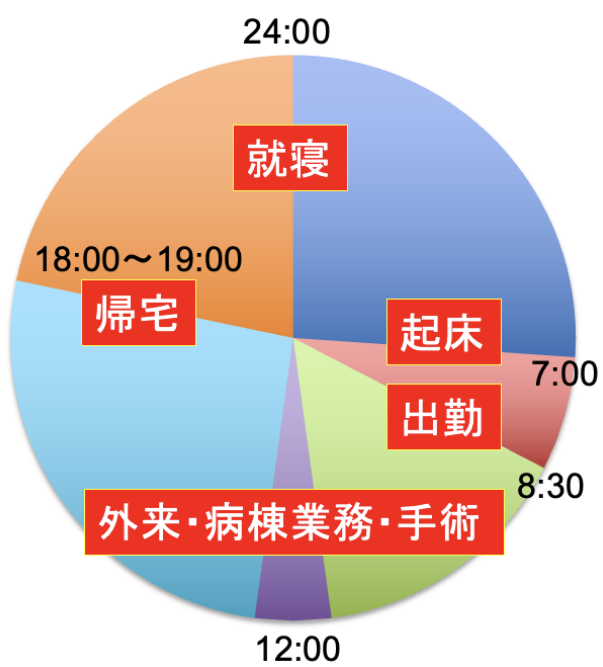
眼科専門医を目指す上で、これほど早い段階で実践的な手技に触れられるのは大きな強みです。

今の恵まれた環境での研修に乗らない手はないと思います！

眼科に少しでも興味がある方は、ぜひ早めの研修をご検討ください。

一度回っていただければ、雰囲気を肌で感じていただけたらと思います

1日のスケジュール



研修記 2. 藤山 純輝 先生 後期研修1年目 旭川医科大学病院



略歴

2024年 旭川医大 卒業
旭川医科大学病院 初期臨床研修
2026年 旭川医大病院眼科

僕が眼科を選んだ理由は2つあり、専門性の高い点と、手術などの手技が多い点です。内科としても外科としても働ける点も魅力だと思います。

教授や医局のご厚意で、専攻医が始まってすぐに、日本眼科学会総会2026に参加させていただきました。基礎・臨床研究やご高名な先生方の講演など、様々な発表を聞き、眼科学への興味関心が深まり、モチベーションをあげていただきました。この経験を活かして、今後頑張っていきたいと思います。

学会での食事会



研修記 3. 石橋 先生 後期研修1年目 旭川医科大学病院



略歴

2024年 旭川医大 卒業
JCHO北海道病院 初期臨床研修
2026年 旭川医大病院眼科

眼科は内科的な診断や治療だけでなく、外科的な治療も自ら行う事ができ、診断から治療までを自科で完結することができます。そのような点に魅力を感じ私は眼科医を志しました。

現在は上級医の先生方の丁寧な指導のもと、外来や手術に取り組んでおります。非常に学ぶことが多く、充実した日々を送っています。旭川医科大学の眼科は豚の目を使った白内障手術の練習や自分の手術動画を上級医の先生方と共有するシステムが整っており、手技の上達にはこの上ない環境が揃っていると思います。

眼科に興味がある方はぜひ見学にいらしてください。皆さんにお会いするのを楽しみしています。

ウェットラボ



旭川医大眼科の特色

2023年に長岡教授が就任し、医局として年々パワーアップしています。専門外来は糖尿病網膜症、黄斑、緑内障、ぶどう膜、角膜、斜視・弱視、眼形成・涙道があり、眼科の各専門分野をしっかり学ぶことができます。また、臨床のみならず、論文・学会発表にも精力的に取り組み、北海道から日本さらには世界に発信しています。忙しく大変な時もありますが、充実した眼科医生活を送ることができます。

眼科医として一緒に働きませんか？



2026年度眼科医局説明会

日時: 6月19日18時 場所: 眼科医局
連絡先 ganka@asahikawa-med.ac.jp

みなさんの参加をお待ちしております！